

令和3年(2021年)2月9日(火曜日)

富士山登山鉄道構想

山梨知事 国P.T新設表明

富士山の山梨県側の麓と5合目を結ぶ「富士山登山鉄道構想」を巡り、同県の長崎幸太郎知事は8日、国土交通省など関係省庁による国のプロジェクトチーム(P.T)が近く新設される見通しになったと明らかにした。

県が設置した検討会が都内で総会を開き、基本構想を取りまとめた後、報道陣の取材に応じた。「構想実現にあたり、関係省庁に相談できる器をつくっていただけると期待感を示した。ただ、経費や建設技術など事業化に向けた課題は少なくない。

まとまった構想は、既存の有料道路「富士スバルライン」上に次世代型路面電車(LRT)を整備することが柱。整備費は計約1400億円だが、往復料金を1万円と設定した場合、年間約300万人の利用を見込み、事業成立の可能性は高い。

一方で、課題として、

川勝知事へ近く説明

厳冬期運行の安全性、事業を巡る官民での役割分担、噴火時の危機管理などを列挙。今後はいったい課題ごとに新たな検討組織を設け、議論を深める方針。並行して、麓の関係自治体向けの説明にも着手するという。

山梨県の検討会が8日に取りまとめた「富士山登山鉄道構想」について、同県の長崎幸太郎知事は本県の川勝

平太知事を近く訪ね、内容を直接説明する意向を示した。山梨県は今後、実現に向けて本県側の自治体や関係者とも意見交換を進めていく方針だ。

長崎知事は「まず川勝知事と話をし、なぜわれわれがこの登山鉄道を目指していくのかという問題意識を共有したい」と強調。その上で「静岡県とどういう形でコラボレーション(協力)できるか、その可能性も探ってい

きたい」と述べた。同日の検討会でも、富士山世界遺産の構成資産が両県にまたがっていることなどを踏まえ、出席者から山梨県に対して本県との連携を求める声が上がった。

(東京支社・関本豪)

